

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成28年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年 9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&JigyosvCd=2171000488-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな、支援ができるよう取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の骨子である「利用者の地域の関りを大切に穏やかなその人らしい暮らしをできるように」を基に、利用者、家族、地域、職員の信頼関係を大切に、管理者、職員が日々の支援に邁進している。ホーム行事の老人会や道の駅の花見には家族を招待し、家族会として希望や意見を聴き、親交を深める交流の機会としている。家族アンケートでは、回答を寄せた全家族から「利用者への介護サービスの提供に満足している」との回答を得ている。
地域の一大イベントである「白鳥踊り」の祭典は、法人の広い駐車場を毎年踊り会場として開放し、やぐらや模擬店の屋台設営に職員も協力している。踊りの期間は利用者、職員も参加し、地域交流を通じて信頼の輪を築くよう努めている。利用者、家族、職員、地域の信頼の絆は、益々強まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	超高齢化社会を迎え、地域社会の中でグループホームが果たす役割は益々増えていくと考えられ、地域密着サービスの理念をさらに深めていく意識を共有しながら実践に繋げている。	理念をホーム内に掲示している。管理者は、全体会議の中で常に理念を意識させ、職員が実践に反映することを目指している。会議では、理念に基づいた意見交換を行い、理念の浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生・中学生の職場体験や高校生のインターシップの受け入れ、祭礼盆踊りでの駐車場の解放等地域との交流は様々な場面で行われている。	毎日、地域の住人が愛犬の散歩の途中でホームに立ち寄り、利用者と交流することを日課としている。買い物には地域の商店を使い、食材の調達や利用者の買い物を楽しみ、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅支援マイスター養成塾の講師、看護師勉強会での認知症の人に対する対応等のレクチャーなど地域の要請に応じ認知症の状態にある人の理解支援に努めている。今後、町内の認知症勉強会等できると良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を避難訓練と絡めて開催したりすることで単なる堅苦しい会議でなく参加者が気軽に参加し意見を出せるようにしている。自治会の避難訓練参加は恒例となっている。家族からの率直な意見が聞けサービスにサービスに繋がっている。	3ヶ月ごとの運営推進会議には利用者、家族、地域、行政の参加を得ている。外部評価結果の報告、水害時の地域との相互協力、運営に関わる全般をテーマに意見交換を行い、実践に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課、地域包括支援センター、市の介護相談員等と連携を取りながらよりきめ細かいサービスを提供出来るよう努め、相談員が帰るときは、必ず意見を聞くようにしている。	報告、相談に市を訪ね、市は運営推進会議への参加、介護支援相談員の派遣を実施し、ホームの状況把握に努めている。職員が市主催の認知症研修会の講師を務め、認知症カフェの開催にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることの意味、されたものの辛さなどを介護者は理解する想像力をもつ必要があると思う。想像力が身体拘束のないケアを創造していくと思う。制度が理解されていても身体拘束が起きてしまっは意味が無い。	入居前に、「拘束をしないことによるリスク」を家族に説明して理解を得ている。職員は市の拘束に関わる研修を受講し、正しい知識を有している。玄関、居室、リビングの窓の施錠はなく、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、市主催の虐待防止の研修等にスタッフに参加をしてもらい一人でも多くの理解者が増え、安心して暮らせる生活を支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度など、権利擁護に関する研修に積極的に参加して理解に努めている。今後独居老人等の増加とともに制度を活用される方も増えると思われ、しっかり対応できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーを中心に(苑長・責任者も含め)入所前の十分な説明と同意に基づき契約を締結している。安心して入所していただくことが最初の務めと感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し苦情も含め苑長、責任者が対応し、日常生活に関する問題点などは担当職員、ケアマネージャー等を交え定期的にカンファレンス等を行いそこで話し合われたことをもとに利用者、家族への対応を行っている。	ホームの便りと利用者個別の手紙を作成し、家族に利用者の様子を伝え、家族の訪問の際や電話を利用して家族の意見を確認している。毎年、行事と同一日に「家族会」を開催し、意見収集の機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夕焼けのスタッフは人と人との関係性を重視し、関係性(人と人の繋がり)を構築していくことが、結果良いケアが提供できると考え、当然運営に関しても先ずスタッフ(現場)の声を拾うことから出発している。	全体会議を毎月開き、職員の意見を表す機会を設けている。管理者は適切な支援の実践には職員間の信頼関係を大切と考え、会議に限らず日々のコミュニケーションを図り、職員の意見を実践に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心を持って働けるよう配慮はしているが、更なる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員はその段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在岐阜県グループホーム協議会に加入しており、勉強会、研修への参加や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来る限の情報を集め、関係性の構築に務めている。遠回りは一番の近道である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には出来るだけホームを訪れていたが、ご本人の様子など見ていただきながら、家族様の安心を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって今一番欲していること、家族様が一番望まれていること等に耳を傾けながら、適切な初期対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	11)で述べたように関係性を築くことは信頼関係を築くことであり、それは、同時に安心にも繋がり共に支え合うことにもつながる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中にはまだまだ周囲の偏見で肩身の狭い思いをされていたり、施設に預けることに罪悪感を持たれている方もあり、そういったことにも配慮しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって、安心できる生活とは認知症になってもこれまでの社会との関わりや人との関係性を断ち切らないということだと思う。在宅であるグループホームは特にこのことが大切な支援の一つである。	今まで暮らしていた地域の友人、知人の訪問を受け、ホームはくつろいで交流できるよう支援している。利用者は職員と共に近隣の法人内の別事業所と互いに訪問交流を行い、新たな馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これも⑩の考えたかに基づき利用者同士の関係性を築くこともわれわれの大きな支援の一つでもある。時には身体の不自由な利用者を助けてみえたり、一生懸命面倒を見ようとする利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なんらかの理由で退所された方ともその後の様子をお聞きしたり、現在病院に入院されている方に面会に行ったり繋がりが閉ざされることは無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でさりげなくご本人の思いを汲み取るよう耳を傾け、潜在的なニーズに介護者が気づくようにすることを心がけている。気づけないことが、不穏の原因となることもある。	管理者は、利用者の表情の変化や不穏になる背景をひも解き、利用者の思いや意向を読み取るよう職員に助言している。利用者の思いを把握した場合には、「本人の希望や意向シート」に記している。	職員の利用者の意向、思いの把握を行う意義の理解、意識、記録の精度に温度差がある。把握、記録の精度向上について一考願いたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握はその方をケアしていくヒントを与えてくれるもので、情報を一つのツールとして活用し、その方がホームの環境に早く馴染めるように援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お年寄りには健康状態など急変することもあり、その日、その場、その時で柔軟に対応しながら、スタッフ間で情報の共有(連絡ノートの活用等)に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場からの声をベースにしながら介護職、看護師、法人の医師、管理栄養士、ケアマネージャー等、で連携しながら介護計画を作成し、1か月ごとにモニタリングしながら実施している。	介護計画の検証を毎月行い、3ヶ月を基本に見直し、状態変化にも都度見直している。見直しは利用者、家族の意向を確認のうえ職員の意見交換を行い、「その人らしい」プランとなるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護サービスの証であるとともに利用者の変化を見逃さないためにも大切にしている。また、実践した記録を日々のケアに反映させ、介護計画の見直し等に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームを車に例えると大型トラックではなく軽トラであるという発想で、フットワークの軽さが信条であり売りと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある美容院・理容院の利用やかかりつけ医(歯科受診等も含め)への受診等地域の資源と切り離してケアしていくことは考えられない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通院されていた、かかりつけ医等そのまま継続して支援している。ご本人の安心を得ることに繋がる。	かかりつけ医は利用者、家族の希望医として。外来受診は看護師である職員を中心に同行して支援している。母体である医療法人の院長は看護師である職員と連携し、24時間の万全の体制を敷いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームでも医療的ニーズは高く職場の看護師や法人の医院の看護師等と連携し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近提携先の病院の院長、看護師と懇談し施設からの病院への受け入れ体制の窓口を一本化し、より密に連携していくことを確認した。また、施設側の情報提供(認知症についても)より伝えやすくなった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの意思確認を行い、実際に看取り期に入っても揺れ動く家族の心に寄り添い意思確認をその都度行いながら前に進むようにしている。	家族に看取りの指針を説明し、意向を確認している。運営母体である医療機関の専門性を活かし、これまでに複数の看取りを経験している。看取りは家族、医療関係者を交えて十分な話し合いを重ね、後悔のないよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法や心臓マッサージ、人工呼吸法の研修を消防署の救命隊員を招き行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	主に火災訓練を想定した(昼夜)訓練を消防署、自治会の参加のもと年2回実施している。水害に関して水害時法人内の2階の建屋(赤とんぼ・かがやき)へ避難することとなっている。	年2回の訓練を実施している。毎回、消防署の立会いを受け、地域の自治会長、民生委員の参加を得ている。水害の想定をしており、法人内の2階建て別事業所を避難場所として定めている。	水害時の避難場所を定めているものの、実際の避難訓練を実施していない。実際の訓練を行い、想定外の問題の抽出、確認、対策について検証を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社会的に「認知症の人」という烙印を押された人その人の姿は見えなくなる。先ずその人そのものを見ることが大切で介護者自らが偏見をなくしていくことが重要であると思う。	職員は利用者の人格を重んじ、利用者のペース、判断を大切に無用な支援を避け、誇りを損なわないよう努めている。居室の入室時は必ず許可をとり、トイレ、風呂場は他の視線に触れないようドアを閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームを利用されているほどのお年寄りには、世話になって申し訳ないという気持ちをどこかに持っておられるため、そういった心の重圧感を取り除き自由に発言、行動できる関係性づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りペース(ゆったりした時間の使い方)を大事にし、スタッフのペースがつつい早くなっているか自己チェックをしながら仕事をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	No.29 でも書いたようにご本人希望の理美容院への送迎や、毎日の衣服のチョイス等ご本人の希望に沿った援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房がフロアに隣接し煮物の匂いや食器の音等が日常的に聞こえてくる環境にあり、食器洗いやエンドウのすじ取りなどを手伝って頂いている。又、管理栄養士が季節の食材を取り入れたメニュー作りをしている。	管理栄養士のバランスを考えた献立を基に調理専門職員を配置し、温かな家庭料理を提供している。家族も参加する花見行事には手作り弁当を準備し、夏は流しそうめんを企画して利用者の喜びを演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を実施、体重の増減などから管理栄養士と協議、栄養状態の悪い方へのエンシュワ提供、褥瘡傾向にある方へのペムノンの提供などその状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行い、ご自分でできない方にはスタッフがケアしている。また、つきに1回程度歯科医から特にケアが必要な方へ訪問治療していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方の排泄パターンは把握しているが、時間や表情等から適切な声かけにより排泄がスムーズに行えるように支援している。便秘気味の方には、看護師と連携適切な薬の処方により排便を促している。	排泄記録をとり、利用者個別に快適な排泄支援を行うよう対応策を申し合わせて実践している。入居時にはベッドでのおむつ交換が常の利用者が、適切な声掛け・誘導が功を奏し、トイレでの排泄に改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員ではないが、既往歴(腸閉塞等)をお持ちの方等には、排便チェックを行い、便通の良くなる薬や時には座薬、浣腸等により排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定をたててあるが、それらに縛られること無く、その日の体調や気分(入浴したくない等)に応じ、臨機応変に支援している。機械浴の必要な方には系列の小規模多機能の浴槽で入浴していただいている。	週2回の入浴を基本としている。入浴剤を使用して温泉気分を演出し、長風呂や好みの湯加減にも柔軟に対応している。歩行の難しい利用者はリフト機械浴の設備を使用し、全員の湯船の入浴が叶っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の必要な方には、昼寝をしていただいたり、早く休みたい人、21:00ころまでテレビを見ている人など様々である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は認知症の状態にある人の意味、苦手なことの一つ(物忘れがあるため)と捉え正確に服薬できるよう援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活は単調になりやすいためご本人のかつて出来ていた事、好きだったことに焦点を当てできるだけご本人の思いに添える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調を考慮しながら、その日その日の希望や、あらかじめ聞いていた、(美容院等の予約)に沿って支援している。早朝散歩されたり近くの八百屋さんに行き買い物をされたりする利用者様もいる。	散歩を日課とし、リビングの窓の外に続く広いテラスに椅子を置き、外気に触れて気分転換を図る機会としている。喫茶店、地元商店の買い物、電車利用の小旅行を行い、家族参加の花見会では、道の駅で弁当を購入して花見気分を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしまい忘れ等によりトラブルになる(盗られたと思われ)ことが多く、簡単ようで難しい支援の一つです。個人で管理できる方には個人で、出来ない方には、事務所でという方法で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方もおられ他の方にも自由に家族に電話されたりしている。手紙は絵手紙をだして下さる家族様もみえますが、返事は本人は書けないので担当職員が代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には余り余分な物は置かないで、出来るだけシンプルにし、季節感等が分かる壁飾りやお花を生けたりする。また、池のある庭も共有空間として利用し散歩されたり池、の金魚に餌をやられたりしている。	リビングの履き出しの大きな窓の外に広いテラスを設けている。テラスの先には青々とした芝生や池のある庭が広がり、池には近くの水源から水を引いている。室内は掃除が行き届き、明るく快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人になるというよりブラッとテラスに出て、ぼんやり外の空気を吸われたり、仲の良い人同士がソファに座り、お話をされたりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来るだけ馴染みの物や、ご本人が愛情のあるものを持参していただき、ここでの生活が落ち着いて安心していただけるよう、配慮している。	利用者、家族の思いに沿い、使い慣れた家具や目覚まし時計、テレビ、家族連絡用の携帯電話、ぬいぐるみ、化粧水、家族の写真、遺影を持ち込んでいる。家族も居心地の良い居室作りに協力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主な生活場所(トイレ・浴室・脱衣場・廊下等)に手摺りを設置し転倒予防や掴まり歩きの出来る方の援助に繋げている。また、トイレ等の表示も見やすいものにして場所がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成28年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年 9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2171000488-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな、支援ができるよう取り組んでいる。</p> <p>医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	超高齢化社会を迎え、地域社会の中でグループホームが果たす役割は益々増えていくと考えられ、地域密着サービスの理念をさらに深めていく意識を共有しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生・中学生の職場体験や高校生のインターシップの受け入れ、祭礼盆踊りでの駐車場の解放等地域との交流は様々な場面で行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅支援マイスター養成塾の講師、看護師勉強会での認知症の人に対する対応等のレクチャーなど地域の要請に応じ認知症の状態にある人の理解支援に努めている。今後、町内の認知症勉強会等できると良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を避難訓練と絡めて開催したりすることで単なる堅苦しい会議でなく参加者が気軽に参加し意見を出せるようにしている。自治会の避難訓練参加は恒例となっている。家族からの率直な意見が聞けサービスにサービスに繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課、地域包括支援センター、市の介護相談員等と連携を取りながらよりきめ細かいサービスを提供出来るよう努め、相談員が帰るときは、必ず意見を聞くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることの意味、されたものの辛さなどを介護者は理解する想像力をもつ必要があると思う。想像力が身体拘束のないケアを創造していくと思う。制度が理解されていても身体拘束が起きてしまっは意味が無い。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、市主催の虐待防止の研修等にスタッフに参加をしてもらい一人でも多くの理解者が増え、安心して暮らせる生活を支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度など、権利擁護に関する研修に積極的に参加して理解に努めている。今後独居老人等の増加とともに制度を活用される方も増えると思われ、しっかり対応できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーを中心に(苑長・責任者も含め)入所前の十分な説明と同意に基づき契約を締結している。安心して入所していただくことが最初の務めと感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し苦情も含め苑長、責任者が対応し、日常生活に関する問題点などは担当職員、ケアマネージャー等を交え定期的にカンファレンス等行いそこで話し合われたことをもとに利用者、家族への対応を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夕焼けのスタッフは人と人との関係性を重視し、関係性(人と人の繋がりを構築していくことが、結果良いケアが提供できると考え、当然運営に関しても先ずスタッフ(現場)の声を拾うことから出発している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心を持って働けるよう配慮はしているが、更なる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員はその段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在岐阜県グループホーム協議会に加入しており、勉強会、研修への参加や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来る限の情報を集め、関係性の構築に務めている。遠回りは一番の近道である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には出来るだけホームを訪れていたが、ご本人の様子など見ていただきながら、家族様の安心を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって今一番欲していること、家族様が一番望まれていること等に耳を傾けながら、適切な初期対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	11)で述べたように関係性を築くことは信頼関係を築くことであり、それは、同時に安心にも繋がり共に支え合うことにもつながる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中にはまだまだ周囲の偏見で肩身の狭い思いをされていたり、施設に預けることに罪悪感を持たれている方もあり、そういったことにも配慮しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって、安心できる生活とは認知症になってもこれまでの社会との関わりや人との関係性を断ち切らないということだと思う。在宅であるグループホームは特にこのことが大切な支援の一つである。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これも⑩の考えたかに基づき利用者同士の関係性を築くこともわれわれの大きな支援の一つでもある。時には身体の不自由な利用者を助けてみえたり、一生懸命面倒を見ようとされる利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なんらかの理由で退所された方ともその後の様子をお聞きしたり、現在病院に入院されている方に面会に行ったり繋がりが閉ざされることは無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でさりげなくご本人の思いを汲み取るよう耳を傾け、潜在的なニーズに介護者が気づくようにすることを心がけている。気づけないことが、不穏の原因となることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握はその方をケアしていくヒントを与えてくれるもので、情報を一つのツールとして活用し、その方がホームの環境に早く馴染めるように援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お年寄りには健康状態など急変することもあり、その日、その場、その時で柔軟に対応しながら、スタッフ間で情報の共有(連絡ノートの活用等)に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場からの声をベースにしながら介護職、看護師、法人の医師、管理栄養士、ケアマネージャー等、で連携しながら介護計画を作成し、1か月ごとにモニタリングしながら実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護サービスの証であるとともに利用者の変化を見逃さないためにも大切にしている。また、実践した記録を日々のケアに反映させ、介護計画の見直し等に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームを車に例えると大型トラックではなく軽トラであるという発想で、フットワークの軽さが信条であり売りと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある美容院・理容院の利用やかかりつけ医(歯科受診等も含め)への受診等地域の資源と切り離してケアしていくことは考えられない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通院されていた、かかりつけ医等そのまま継続して支援している。ご本人の安心を得ることに繋がる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームでも医療的ニーズは高く職場の看護師や法人の医院の看護師等と連携し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近提携先の病院の院長、看護師と懇談し施設からの病院への受け入れ体制の窓口を一本化し、より密に連携していくことを確認した。また、施設側の情報提供(認知症についても)より伝えやすくなった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの意思確認を行い、実際に看取り期に入っても揺れ動く家族の心に寄り添い意思確認をその都度行いながら前に進むようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法や心臓マッサージ、人工呼吸法の研修を消防署の救命隊員を招き行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	主に火災訓練を想定した(昼夜)訓練を消防署、自治会の参加のもと年2回実施している。水害に関して水害時法人内の2階の建屋(赤とんぼ・かがやき)へ避難することとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社会的に「認知症の人と」という烙印を押されたとたんその人の姿は見えなくなる。先ずその人そのものを見ることが大切で介護者自らが偏見をなくしていくことが重要であると思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームを利用されているほどのお年寄りには、世話になって申し訳ないという気持ちをどこかに持っておられるため、そういった心の重圧感を取り除き自由に発言、行動できる関係性づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りペース(ゆったりした時間の使い方)を大事にし、スタッフのペースがつつい早くなってないか自己チェックをしながら仕事をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	No.29 でも書いたようにご本人希望の理美容院への送迎や、毎日の衣服のチョイス等ご本人の希望に沿った援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房がフロアに隣接し煮物の匂いや食器の音等が日常的に聞こえてくる環境にあり、食器洗いやエンドウのすじ取りなどを手伝って頂いている。又、管理栄養士が季節の食材を取り入れたメニュー作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を実施、体重の増減などから管理栄養士と協議、栄養状態の悪い方へのエンシュワ提供、褥瘡傾向にある方へのペムノンの提供などその状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行い、ご自分でできない方にはスタッフがケアしている。また、つきに1回程度歯科医から特にケアが必要な方へ訪問治療していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方の排泄パターンは把握しているが、時間や表情等から適切な声かけにより排泄がスムーズに行えるように支援している。便秘気味の方には、看護師と連携適切な薬の処方により排便を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員ではないが、既往歴(腸閉塞等)をお持ちの方等には、排便チェックを行い、便通の良くなる薬や時には座薬、浣腸等により排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定をたててあるが、それらに縛られること無く、その日の体調や気分(入浴したくない等)に応じ、臨機応変に支援している。機械浴の必要な方には系列の小規模多機能の浴槽で入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の必要な方には、昼寝をしていただいたり、早く休みたい人、21:00ころまでテレビを見ている人など様々である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は認知症の状態にある人の意味、苦手なことの一つ(物忘れがあるため)と捉え正確に服薬できるよう援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活は単調になりやすいためご本人のかつて出来ていた事、好きだったことに焦点を当てできるだけご本人の思いに添える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調を考慮しながら、その日その日の希望や、あらかじめ聞いていた、(美容院等の予約)に沿って支援している。早朝散歩されたり近くの八百屋さんに行き買い物に行かれたりする利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしまい忘れ等によりトラブルになる(盗られたと思われ)ことが多く、簡単のようで難しい支援の一つです。個人で管理できる方には個人で、出来ない方には、事務所でという方法で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方もおられ他の方にも自由に家族に電話されたりしている。手紙は絵手紙をだして下さる家族様もみえますが、返事は本人は書けないので担当職員が代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には余り余分な物は置かないで、出来るだけシンプルにし、季節感等が分かる壁飾りや、お花を生けたりする。また、池のある庭も共有空間として利用し散歩されたり池、の金魚に餌をやられたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人になるというよりブラッとテラスに出て、ぼんやり外の空気を吸われたり、仲の良い人同士がソファーに座り、お話をされたりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来るだけ馴染みの物や、ご本人が愛情のあるものを持参していただき、ここでの生活が落ち着いて安心していただけるよう、配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主な生活場所(トイレ・浴室・脱衣場・廊下等)に手摺りを設置し転倒予防や掴まり歩きの出来る方の援助に繋げている。また、トイレ等の表示も見やすいものにして場所がわかるようにしている。		